

表25 神功の年次表の解説(外交史を含む)

2009/09/12改訂  
2008/8/21 by marishi

A系列(+162年)			B系列(+120年)			C系列(+0)		備考
記載値		復元値	記載値		復元値	記載・復元値		参考)162年-120年=42年
西暦	年次		西暦	年次		西暦	年次	
200	仲9庚辰	362壬戌						362年壬戌、仲哀崩御 応神誕生(誤り→翌年363年誕生)
201	1辛巳	363癸亥	243	43癸亥*	363癸亥			363年癸亥、摂政元年(応神誕生1歳) 仲哀皇子を討つ
202	2壬午	364甲子	244	44甲子	364			仲哀、陵に葬る 百濟、倭への道を尋ねる
203	3癸未	365乙丑						応神立太子4歳→3歳
213	13癸巳	365乙丑						
205	5乙酉	+212/417 (162+50)	246	46丙寅	366			卓淳国へ遣わす 新羅微叱許智(三国史記418年) 百濟、新羅、倭へ朝貢 荒田別に新羅を撃つ 荒田別還る
			247	47丁卯	367			
			249	49己巳	369			
			250	50庚午	370			
209	9己丑*	371辛未	251	51辛未	371辛未			371年辛未、摂政退位。(成務崩御) 創作上の摂政在位9年(成務在位中)
219	19己亥*	371辛未						
			252	52壬申	372			七枝刀(369年製作)。(仲哀即位) 百濟、近肖古王没 百濟、貴須王位に就く (仲哀崩御) (応神即位19歳) 新羅朝貢せず、討つ 百濟、貴須王没。枕流王位に就く 百濟、枕流王没。辰斯王位に就く
			255	55乙亥	375			
			256	56丙子	376			
					380庚辰			
					381辛巳			
			262	62壬午	382			
			264	64甲申	384			
			265	65乙酉	385			
227	27丁未*	389己丑	269	69己丑	389己丑			389年己丑、神功崩御、在位27年 B系列最終年(崩年100歳)
237	37丁巳*	389己丑						
(239)						239年	39	以下、中国史書関係
(240)						240年	40	
			(243)			243年	43	
			(266)			266年	66	
232	32壬子*	394甲午						394年は、404年を10年減じた。 (応神崩御、在位41年→崩年41歳) 404年甲辰、A系列最終年(空位年)
242	42壬戌*	403癸卯 404甲辰						

注0) \*印は「記事なし」を示す。

神功皇后に関しては創作であり、摂政在位は存在しない。ただし、次の応神に関する年代などは正しい。

1) 神功皇后摂政元年201年=363年、応神誕生1歳

2) 応神在位41年→応神崩年41歳

3) 神功皇后摂政42年(A系列最終年次)=404年は、神功皇后および応神天皇に属し、仁徳天皇の年代には関係しない。従って、404年は応神崩御後の空位年に相当する。

4) B系列の復元年代は、基本的に正しい年代と見做せる。

以下注1から注8までの説明は、創作上の神功皇后に関する解説結果である。

注1) A系列は実年と162年の差を有する。記載年200年が実年362年に相当し、その間の年差である。

注2) 神功摂政期間を、201年(摂政元年)~209年(摂政9年)と243年(摂政元年)~371年(摂政9年)と見ることができる。この場合の神功摂政在位は9年となる。復元値は、363年~371年である。

注3) A系列の211年以降は10年減じ、213年(摂政13年)は203年(摂政3年、復元値365年)へ移動する。

注4) 51年次(371年)の記事「朕が存けらむ時の如くに、厚く恩恵を加えよ」は摂政退位を示唆する。

注5) B系列は百濟関係の記事が主であるが、朝鮮に関する対外的な記事ともとれる。

記載年代と実年とは120年の差を有する。

注6) A系列(+162年)からB系列(+120年)への移行には、延長年から42年減じなければならない。

42年減年すると、年差(加算値)は162年から120年になる。

注7) 神功崩御269年(復元値389年)までを摂政在位と看做すと、在位は27年[389-363+1=27年]となる。

注8) C系列は実年表示である。中国史書の関係で、摂政在位とは無関係である。

参考) 近肖古王: 345~375、貴須王: 375~384、枕流王384~385、辰斯王385~392